				20	23 +				
科 目 名	看護学概論	単位数	1 🖪	時間 数	30				
担当教員	専任教員	実務経験	有層	夏修年次	1年				
	看護の対象である人間とはどのような存在か。健康とはどのような状態なのか。人々の								
科目の概要	生活を見る視点、法律や理論家によって定義されている看護の役割を学ぶ。また、多職種								
	の役割を知り、協働の中で看護に求められる役	割を理解す	る。						
	1. 看護の概念がわかる								
	2. 看護の役割がわかる								
学習目標	3. 大切な人の看護を考えることができる								
	4. 多職種の中での看護の役割がわかる								
	5. 看護師として求められる倫理的態度についる	て考えること	こができる						
	学習内容	授美	美方法	時間	担当				
1	1. 看護の概念がわかる	レオ	⊩ ドート	2 H					
1	1) 看護の歴史	「私の考え	る看護とは」						
1	2) 看護の概念枠組み(1) 人間とは	ij	構義	1 H					
	(2) 環境とは	個人	ワーク	2 H					
	(3) 健康とは	グルー	プワーク	3 H					
	2. 看護の役割がわかる	発表:	・まとめ	3 H					
	(4) 看護とは	レオ	ぱート	2 H					
1	3. 大切な人の看護を考えることができる	講義 倨	人ワーク	2 H					
	1) 大切な人の生活・健康観を知る		プワーク	2 H					
授業計画	2) 大切な人の健康を維持・増進するため		・まとめ	2 H	専任				
	の提案を考える	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,			教員				
	4. 多職種の中での看護の役割がわかる		ワーク	1 H					
			プワーク	1 H					
		講義・	・まとめ	1 H					
	5. 看護師として求められる倫理的態度につい		ワーク	1 H					
	て考えることができる	• •	プワーク	1 H					
		講義:	・まとめ	2 H					
	TBL			2 H					
	筆記試験			1H					
	まとめ	릶	構義 —————	1 H					
評価方法	TBL 10 点 筆記試験 90 点								
	·統計看護学講座 専門分野 看護学概論[1]基礎看護学								
テキスト	・よくわかる看護者の倫理綱領(照林社)・看護師のため			日本看護協会	出版会)				
	・看護の基本となるもの ヴァージニアヘンダーソン	蒈 (日本看護	協会出版会)						
参考文献									
1-4-4									

現時点で自分が大切にしたい看護を記しましょう。何が看護で、何が看護ではないのか、自分の考え を意識しながら、学んでゆきましょう。

				2023) +				
科 目 名	安全・コミュニケーションの看護方法論	単位数	1	時間数	30				
担当教員	専任教員	実務経験	有	履修年次	1 年				
ショク無事	看護技術の基礎である技術のうち看護活動に共通する技術(安全守る技術、人間関係を								
科目の概要	立させる技術、学習支援、記録・報告)について学習する。								
	1.コミュニケーションの概念が分かり看護におけるコミュニケーションについて学ぶ								
	2. 看護における記録・報告の目的・方法がわかる 学習目標 3. 看護上の事故防止について考えることができる 4. 感染防御のための技術を身につけることができる								
学習目標									
	5. 日常生活における学習支援の基本がわかる								
	学習内容	授業	方法	時間	担当				
	1. コミュニケーションの技術	講	義	3 H					
	2. コミュニケーションの構成要素と成立過程	講	義	2Н					
	3. 関係性構築のためのコミュニケーションの基本	講	義	4					
	4. 効果的なコミュニケーションの実際	ナーシング	チャンネ	kル H H					
	5. コミュニケーション障害への対応	講	講義 ナーシングチャンネル						
	6. 看護場面におけるコミュニケーション	ナーシング							
	7. 記録・報告		講義						
	1) 記録の目的・種類・方法	講		2 H					
	2) 報告の目的・種類・方法								
授業計画	8. 安全を守る技術				± 1~				
	1) 看護における安全とは	=====================================	義	2н	専任				
	2) リスクマネージメントとは	n rs	表		教員				
	3) ヒューマンエラー4) 看護上の事故防止につい	ハて							
	9. 感染防御に必要な基礎知識	講	義	3 H					
	1) 進入経路の遮断	講義	. 油型	' Зн					
	(1) 隔離法とガウンテクニック (2) 手洗い	件我	次日	011					
	2) 感染防御技術(1) 無菌操作(鑷子、綿球、手	袋) 講義	• 演習	' 2H					
	10. 学習支援	講	義						
	1) 看護の教育機能 2) 学習支援の基本	グルーフ	プワー						
	3) 学習支援の対象と領域 4) 学習支援の進め方	プレゼン	テーショ	ン 2H					
評価方法	筆記試験			1 H					
- 1 - 1	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看	—— 『護技術 I(医学	書院)					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看	請護技術 Ⅱ(医学	書院)					
	川村 治子著 『医療安全ワークブック』 (医学書院)吉田 哲語	著 『人を知る私を	知る』	看護の科学者	•				
参考文献	E. ウィーディンバック著 『コミュニケーション』 (日本看詞	護協会出版会)							
	M. シェネバート著 『ナースのためのアサーティブトレーニング	グ』 (医学書院)							
担当教員から	らのメッセージ								

看護の基礎となる技術と知識になります。意識して取り組んでいきましょう。

					20	25 年							
科目名	環境・活動と休息の看護方法論	単位数	1	時間	数	30							
担当教員	専任教員	実務経験	有	履修4	年次	1年							
ti I o tur #	対象の生活を整える技術を学ぶ科目である。	。対象の生活	舌を整	とえる技術	のうち記	参療の補							
科目の概要	助技術を含まない環境を整える技術、活動と	休息を助け	る技術	うを学ぶ。									
	1. 日常生活援助技術の概要が分かる												
	2. 療養環境の構成要素が分かり、模擬患者の	2. 療養環境の構成要素が分かり、模擬患者の病床の整備ができる											
学習目標	3. 活動と休息の意義が分かり、活動と休息の	援助方法が	うわか	る									
	4. 模擬患者を安楽な体位に整えること、車格	子とストレ	ッチ	ャーを使っ	って移動	する							
	ことができる												
	学習内容		授第	美方法	時間	担当							
	1. 日常生活援助技術とは												
	1) 日常生活援助技術とは		탪	購義	1H								
	2) 日常生活援助技術における安全												
	2. 療養環境												
	1) 療養環境を構成する要素												
	(1)物理・化学的環境 (2)人的環境		講義										
	2) 快適な生活環境の条件 3)ベッドメーキ	ング	污	寅習	10 H								
	(1)シーツのたたみ方(2)オープンベット		重	协画									
	(3)作り直しのベッド												
授業計画	4) 基本的な病床の整備					専任							
	・「病床の整備について考えてみる」	٤	ミュレー	ション演習	3 H	教員							
	3. 活動と休息					扒貝							
	1) 活動について 2) 休息について		討	購義									
	3) 活動と休息への援助 (体位変換)		淳	實習	11 H								
	4) 移動の方法 (移乗・移送)		重	协画									
	(1)車椅子 (2)ストレッチャー、ベッド	般送											
	4. 苦痛の緩和・安楽確保の技術		i	購義	1 H								
	1) 安楽な体位(体位保持)		淳	實習									
	5. まとめ		ì	寅習									
	1) 臥床患者のいるシーツ交換(2人で介助))		、口 司学習)	4 H								
	2) 臥床患者の車椅子移動		(1))										
評価方法	・筆記試験												
テキスト	・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2]												
	・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3]												
参考文献	・岡崎美智子著 『看護技術~その手順と根打	_			•								
	・岡庭豊(発行者)『看護技術がみえる①』メ	ディックメ	ディ	ア		参考 又 版 · 岡庭豊(発行者)『看護技術がみえる①』メディックメディア							

演習が始まる前に教科書、参考文献、動画を活用し、方法・手順を調べ、実際にやってみて演習に臨みましょう。

科 目 名	清潔の看護方法論	単位数	1	時間数	30				
担当教員	専任教員	実務経験	有	履修年次	1年				
科目の概要	対象の生活を整える技術を学ぶ科目である。対	対象の生活を整える技術を学ぶ科目である。対象の生活を整える技術のうち診療の補助							
11107///2	技術を含まない身体の清潔の援助技術、衣生活	舌での援助	技術を	学ぶ。					
	1. 清潔の意義が分かり、清潔の援助方法がわ	かる							
	1)模擬患者の全身清拭と洗髪ができる								
学習目標	2) 入浴・シャワー浴・陰部・口腔・手足の	清潔援助の	の方法が	わかる					
	3) 整容の援助の方法がわかる								
	2. 衣生活の意義が分かり、模擬患者の寝衣交	換ができる	3						
	学習内容	持	受業方法	時間	担当				
	1. 清潔		講義	2 H					
	1) 清拭の目的、方法		演習	3H					
	2) 臥床患者の全身清拭の援助方法	++ 4							
	3) 他者への触れ方(タッチング)	1771	デチェッ	7 4 11					
	4) 洗髪の目的・適応		講義						
	 5) ケリーパットを使用した洗髪の援助方法	<u>.</u>	演習						
	3) グラーバグトを使用した沈麦の援助力法	技術	技術チェック	ク 4H					
授業計画	6) 入浴、シャワー浴の目的と方法		講義	1 H	専任				
	陰部洗浄の目的と方法	グル	ープワー	-ク '冖					
	7) 手浴・足浴の目的と方法		演習	Fil	教員				
	8) 整容	グル	ープワー	-ク ⁵ H	() () ()				
	2. 衣生活								
	1) 衣服の意義		講義	1 H					
	 2)病衣の条件		演習	2 H					
	3) 衣服の着脱を助ける援助方法	技術	うチェッ	ク 2H					
	(1) 患者の寝衣交換								
	筆記試験 清潔・清拭他 : 55 点	I							
評価方法	洗髮 : 30 点			1 H					
	衣生活 : 15 点								
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] は	基礎看護技	術Ⅱ(医学書院)	l				
参考文献	看護技術がみえる1 メディクメディア								

演習が始まる前に、教科書、参考書、動画などを使い技術の手順を確認し、まとめておいてください。 演習後は、振り返りをして次に繋げるようにしていきましょう。

技術チェックでは自身の技術を磨いて、手順を完璧にしてから挑むようにしましょう。

				20	723 +
科 目 名	食生活の看護方法論	単位数	1	時間数	30
担当教員	専任教員	実務経験	有	履修年次	1年
科目の概要	対象の生活を整える技術のうち、診療の補助 る。対象者が健康的かつ安全で快適な食行動 食に関する認識・行動についてアセスメント 習慣の獲得に向けて援助していく方法を学ぶ	がとれるよ する必要か	う、栄養	状態、摂取能力	力、食欲、
学習目標	1. 食生活の意義を理解し、援助方法を習得っ	できる			
	学習内容		授業方法	時間	担当
	 食事援助の基礎知識 栄養状態および摂食能力、食欲や食に対す 認識のアセスメント 医療施設で提供される食事の種類と形態 	⁻ る グ	講義 ループワー 事例検討	<i>д</i> 4Н	
	2. 食事摂取の介助1)援助の基礎知識2)援助の実際		講義 ループワー 演習 動画視聴	8 H	
授業計画	3. 摂食・嚥下訓練 1)援助の基礎知識 2)援助の実際		講義 事例検討	3Н	専任 教員
	4. 非経口的栄養摂取の実際1)経管栄養法2)中心静脈栄養法		講義 演習 動画視聴	8н	
	5. 食事指導法		講義 レープワ- 事例検討	•	
	筆記試験		終講試験	1н	
	振り返り			1 H	
評 価 方 法	筆記試験				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造				院)
参考文献	厚生労働省:日本人の食事摂取基準 看護が見える 基礎看護技術 vol. I ナーシングチャンネル				
1 10 11 11 0 1 2	5 / I 3°				

「食べる」という意義を理解し、安全な援助を提供するために、知識と根拠に基づいた技術を身につけましょう。

科目名		単位数	1	吐 [間数	25 年 30			
担当教員	専任教員	実務経験	有		年次	1年			
科目の概要	この科目は、対象者の生活を整える技術のうち、対象者の状態をアセスメントし、排泄の自立に向けての援助を学ぶ。また、診療の補助技術である導尿や浣腸においては、安全の意義と法的責任の内容を教授し、正しい知識のもと、根拠に基づいた技術を提供できるように学習する。排泄の意義、排尿・排便のメカニズムなどの基礎知識を確認し、自然排泄ができるような援助技術、自然排泄ができない場合の援助技術についても教授していく。								
学習目標	1. 排泄の意義を理解し、援助方法を習得できる	<u> </u>							
			 授業フ	 5法	時間	担当			
	 排尿・排便のメカニズム 排泄に関するアセスメントとは 		講		1н				
	3. 排泄の観察の視点 4. 排泄習慣の確立のため 5. 環境調整	の援助	講事	É 戈	1н				
	6. 排尿・排便の介助 1)排泄器具・設備 2)トイレでの排泄介助		講義・	動画	2 H				
	3) ポータブルトイレでの排泄介助		演習•	講義	3 H				
	4) 便器・尿器のあて方		演習•	講義	3 H				
	5) オムツのあて方・陰部の保清		演習	3	3 H				
授業計画	7. 排泄障害を持つ患者への援助 1)診察の補助技術としての処置 2)主な排尿障害の種類と要因 3)排尿を助ける援助方法		講義・	動画	2Н	専任 教員			
	(1) 導尿または膀胱留置カテーテルの挿入		演習	3	4 H				
	(2)膀胱留置カテーテルの管理		演習	3	2 H	1			
	4) 主な排便障害の種類と要因 5) 排便を助ける援助方法		講義・	動画	2 H				
	(1) 浣腸		演習		3 H				
	(2) 摘便		演習	P	2 H				
	8. 排泄の意義		講	 長	1 H				
評価方法	筆記試験	1			1 H				
テキスト	·系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II (医学書院)								
参考文献	岡庭豊(発行者)『看護技術がみえる①』(メディ	ィックメデ	"ィア)	ナーシ	ングチャ	ンネル			

患者さんに安全・安楽な技術を提供するために、知識に基づいた技術をみにつけましょう。演習が始まる前に教科書・動画を活用し、手順・方法・根拠について調べましょう。

科目名 フィジカルアセスメントの看護方法論 単位数 1 時間数 30 担当教員 専任教員 東任教員 実務経験 有 歴修年次 1年 対象の身体状況を把握するための技術を学ぶ科目である。フィジカルアセスメントの意義と概要を理解し、生命活動の指標となる値の示す意味を理解する。 2. 「呼吸、脈拍、血圧、体温の測定ができ、測定結果の意味することがわかる 3. 胸腹部のフィジカルアセスメントと理解し、正常呼吸音と腸操動音が聴診できる 4. 骨筋系・神経系のフィジカルアセスメントについてわかる 5. 基本的な身体計測の方法がわから 6. 電法の目的と方法がわかから 6. 電法の目的と方法がわかり、適切に電法が準備・施行できる					_	2020	'			
科目の概要 対象の身体状況を把握するための技術を学ぶ科目である。フィジカルアセスメントの意義と概要を理解し、生命活動の指標となる値の示す意味を理解する。 1. ヘルスアセスメントの概要がわかる。 2. 呼吸、脈拍、血圧、体温の測定ができ、測定結果の意味することがわかる 3. 胸腹部のフィジカルアセスメントを理解し、正常呼吸音と腸蠕動音が聴診できる 4. 骨筋系・神経系のフィジカルアセスメントについてわかる 5. 基本的な身体計測の方法がわかる。 6. 罨法の目的と方法がわかり、適切に罨法が準備・施行できる 学習内容 1. ヘルスアセスメントの概要 1) ヘルスアセスメントと確乳の正常と異常、測定方法 1) バイタルサインの観察とアセスメント 1) バイタルサインとは 2) 意識・体温 (1) 意識状態のアセスメントと違孔反射(2) 体温の正常と異常、測定方法 3) 脈拍・呼吸・血圧 (1) 脈拍の正常と異常(2) 脈拍測定の部位と方法 (3) 呼吸の正常と異常(5) 血圧のメカニズム、測定方法 4) バイタルサイン測定 (4) 血圧の正常と異常(5) 血圧のメカニズム、測定方法 4) バイタルサイン測定 (1) アネロイド血圧計での測定方法(2) バイタルサインの測定方法 (3) 神吸の正常と異常(5) 血圧のメカニズム、測定方法 4) パイタルサイン測定 (1) アネロイド血圧計での測定方法(2) バイタルサインの測定方法 (3) 神吸部系系・循環器系の観察 (1) 正常な中の・領域の異常(2) 神吸の判定方法(2) バイタルサインの測定方法 (3) 胸腹部の観察とアセスメント 1) 呼吸器系・循環器系の観察 (1) 正常な中の・領域の異常(2) 身体計測(3 = 1 = 1 = 1 = 1 = 1 = 1 = 1 = 1 = 1 =	科目名	フィジカルアセスメントの看護方法論	単位数	1	時間	数	30			
# 目の概要 義と概要を理解し、生命活動の指標となる値の示す意味を理解する。 1. ヘルスアセスメントの概要がわかる。 2. 呼吸、脈拍、血圧、体温の測定ができ、測定結果の意味することがわかる 3. 胸腹部のフィジカルアセスメントを理解し、正常呼吸音と陽蠕動音が聴診できる 4. 骨筋系・神経系のフィジカルアセスメントについてわかる 5. 基本的な身体計測の方法がわかる 6. 電法の目的と方法がわかり、適切に電法が準備・施行できる	担当教員	専任教員	実務経験	有	履修组	手次	1年			
表と概要を理解し、生命活動の指標となる値の示す意味を理解する。	科目の概要	対象の身体状況を把握するための技術を学ぶ科	目である。	フィジ	カルアセ	スメント	への意			
学習目標	11 - 7 170 4	義と概要を理解し、生命活動の指標となる値の	示す意味を	理解する	3 .					
 第										
		2. 呼吸、脈拍、血圧、体温の測定ができ、測定結果の意味することがわかる								
4. 骨筋系・神経系のフィジカルアセスメントについてわかる 5. 基本的な身体計測の方法がわかる 6. 罨法の目的と方法がわかり、適切に罨法が準備・施行できる	学習目標		3. 胸腹部のフィジカルアセスメントを理解し、正常呼吸音と腸蠕動音が聴診できる							
1. ヘルスアセスメントの概要			についてわ	かる						
学習内容 投業方法 時間 担当										
1. ヘルスアセスメントの概要 講義 2日 1)		6. 罨法の目的と方法がわかり、適切に罨法が準備・施行できる								
2						時間	担当			
1) ヘルスアセスメントとは2) フィジカルアセスメントに必要な技術 動画視聴 2. パイタルサインの観察とアセスメント 1) パイタルサインとは 2) 意識・体温 (1) 意識状態のアセスメントと瞳孔反射(2)体温の正常と異常、測定方法 ハテスト 3) 脈拍・呼吸・血圧 (1)脈拍の正常と異常 (2)脈拍測定の部位と方法 (3)呼吸の正常と異常(5)血圧のメカニズム、測定方法 (4)血圧の正常と異常(5)血圧のメカニズム、測定方法 4)パイタルサイン測定 (1)アネロイド血圧計での測定方法(2)パイタルサインの測定方法 4)実技試験オリエンテーション 3. 胸腹部の観察とアセスメント 1)呼吸器系・循環器系の観察 (1)正常な心音、循環の異常(2)呼吸音と胸部の視診、聴診、打診、触診 動画視聴 ハテスト 2)腹部の観察 (1)正常な心音、循環の異常(2)呼吸音と胸部の視診、聴診、打診、触診 動画視聴 2)腹部の観察 (1)原常な心音、循環の異常(2)呼吸音と胸部の視診、聴診、抗診、触診 動画視聴 2)腹部の視診、触診、聴診、打診(2)身体計測(また・8ま・東西のに油の定理と対対は ハテスト (1)呼吸音の聴診部位と手技(2)腸蠕動音の聴診、触診、腹囲測定 4. 筋・骨格系・神経系のアセスメント (1)呼吸音の聴診部位と手技(2)腸蠕動音の聴診、触診、腹囲測定 4. 筋・骨格系・神経系のアセスメント 1)ROM・MMT 2)錐体路・小脳機能・反射 5. 皮膚・感覚器の関密 2)罨法の目的と種類・禁忌 3)罨法の施行方法と留意点 毎の発表の目的と種類・禁忌 3)番法の施行方法と留意点 年記試験 実技試験 7 キスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2][3]基礎看護技術 I II (医学書院)					講義	2 H				
1) バイタルサインとは 2) 意識・体温 (1)意識状態のアセスメントと瞳孔反射(2) 体温の正常と異常、測定方法 (3) 脈拍・呼吸・血圧 (1) 脈拍の正常と異常 (2) 脈拍測定の部位と方法 (3) 呼吸の正常と異常、呼吸の測定方法 (4) 血圧の正常と異常(5) 血圧のメカニズム、測定方法 (4) かイタルサイン測定 (1) アネロイド血圧計での測定方法(2) バイタルサインの測定方法 (1) アネロイド血圧計での測定方法(2) バイタルサインの測定方法 (1) 呼吸器系・循環器系の観察 (1) 正常な心音、循環の異常(2) 呼吸音と胸部の視診、聴診、打診、触診 (1) 正常な心音、循環の異常(2) 呼吸音と胸部の視診、聴診、打診、触診 (1) 腹部の視察 (1) 腹部の視診、聴診、打診(2) 身体計測(過去・過速・阻率の対策の基準と方法) (1) 脾吸音の聴診的位と手技(2) 腸蠕動音の聴診、触診、腹囲測定 (4. 筋・骨格系・神経系のアセスメント (1) 呼吸音の聴診的位と手技(2) 腸蠕動音の聴診、触診、腹囲測定 (4. 筋・骨格系・神経系のアセスメント 1) ROM・MMT 2) 錐体路・小脳機能・反射 (5. 皮膚・感覚器のでセスメントと罨法 1) 皮膚・感覚器の観察 2) 罨法の目的と種類・禁忌 (3) 罨法の施行方法と留意点 (5W、演習 3H (5T・大力) 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2][3] 基礎看護技術 I II (医学書院)			ントに必要な !	支術		•				
(1)意識状態のアセスメントと瞳孔反射(2)体温の正常と異常、測定方法 ホテスト 3) 脈拍・呼吸・血圧 (1)脈拍の正常と異常 (2)脈拍測定の部位と方法 (3)呼吸の正常と異常(5)血圧のメカニズム、測定方法 (4)血圧の正常と異常(5)血圧のメカニズム、測定方法 (4)バイタルサイン測定 (1)アネロイド血圧計での測定方法(2)バイタルサインの測定方法 (1)アネロイド血圧計での測定方法(2)バイタルサインの測定方法 (1)呼吸器系・循環器系の観察 (1)呼吸器系・循環器系の観察 (1)正常な心音、循環の異常(2)呼吸音と胸部の視診、聴診、打診、触診 (1)腹部の視診、触診、肺診、打診(2)身体計測(過去・過車・超級の計制の過程を方法) (1)腹部の視診、触診、聴診、打診(2)身体計測(過去・過車・超級の計制の過程を方法) (1)呼吸音の聴診部位と手技(2)腸蠕動音の聴診、触診、腹囲測定 (4. 筋・骨格系・神経系のアセスメント (1)呼吸音の聴診部位と手技(2)腸蠕動音の聴診、触診、腹囲測定 (4. 筋・骨格系・神経系のアセスメント 1)ROM・MMT (2)錐体路・小脳機能・反射 (5. 皮膚・感覚器のアセスメントと罨法 1)皮膚・感覚器のでセスメントと罨法 1)皮膚・感覚器の観察 (2)罨法の目的と種類・禁忌 (3)罨法の施行方法と留意点 (5W、演習 3日 (5本) 事画視聴 (5本) 東京 (5本) 表読者 (5本) 東京 (5本) 表述表記 (5本) 東京 (5本) 表述表述表述表述表述表述表述表述表述表述表述表述表述表述表述表述表述表述表述										
3) 脈拍・呼吸・血圧 (1) 脈拍の正常と異常 (2) 脈拍測定の部位と方法 (3) 呼吸の正常と異常 (5) 血圧のメカニズム、測定方法 4) パイタルサイン測定 (1) アネロイド血圧計での測定方法(2) パイタルサインの測定方法 (3) 胸腹部の観察とアセスメント 1) 呼吸器系・循環器系の観察 (1) 正常な心音、循環の異常(2) 呼吸音と胸部の視診、聴診、打診、触診 2) 腹部の観察 (1) 腹部の視診、触診、 肺診、打診(2) 身体計測(ค素・休息・展表のお思えと方法) 3) 胸腹部のフィジカルアセスメント (1) 呼吸音の聴診部位と手技(2) 腸蠕動音の聴診、触診、腹囲測定 4. 筋・骨格系・神経系のアセスメント 1) ROM・MMT 2) 錐体路・小脳機能・反射 5. 皮膚・感覚器のアセスメントと罨法 1) 皮膚・感覚器ののアセスメントと罨法 1) 皮膚・感覚器の観察 2) 罨法の目的と種類・禁忌 3) 罨法の施行方法と留意点 評価方法 筆記試験 実技試験 章記試験 実技試験 第1 日 3						2 H				
(1)脈拍の正常と異常 (2)脈拍測定の部位と方法 (3)呼吸の正常と異常 (2)脈拍測定の部位と方法 (4)血圧の正常と異常 (5)血圧のメカニズム、測定方法 2H がテスト 2H (4)がイタルサイン測定 (1)アネロイド血圧計での測定方法 (2)パイタルサインの測定方法 演習 3H 演習 4)実技試験オリエンテーション 1H 任 教 (1)正常な心音、循環の異常(2)呼吸音と胸部の視診、聴診、打診、触診 動画視聴 2)腹部の観察 (1)正常な心音、循環の異常(2)呼吸音と胸部の視診、聴診、打診、触診 動画視聴 2)腹部の観察 (1)呼吸音の聴診が位と手技(2)身体計測(商長・休里・展開の計画の表電上が) 3)胸腹部のフィジカルアセスメント (1)呼吸音の聴診が位と手技(2)腸蠕動音の聴診、触診、腹囲測定 4.筋・骨格系・神経系のアセスメント 1)ROM・MMT 2)錐体路・小脳機能・反射 5.皮膚・感覚器の観察 2)罨法の目的と種類・禁忌 3)罨法の施行方法と留意点 GW、演習 3H 筆記試験 実技試験 1H 3H 第十 五 大 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2][3] 基礎看護技術 I II (医学書院)		(1) 意識状態のアセスメントと瞳孔反射(2) 体温の正常と異常、測定方法 小テスト								
(1)脈拍の正常と異常 (2)脈拍測定の部位と方法 (3)呼吸の正常と異常、呼吸の測定方法 (4)血圧の正常と異常(5)血圧のメカニズム、測定方法 (4) 加圧の正常と異常(5)血圧のメカニズム、測定方法 (4) バイタルサイン測定 (1)アネロイド血圧計での測定方法(2)バイタルサインの測定方法 (2) ア・カー・ション (1) 呼吸器系・循環器系の観察 (1) 正常な心音、循環の異常(2) 呼吸音と胸部の視診、聴診、打診、触診 動画視聴 (1) 正常な心音、循環の異常(2) 呼吸音と胸部の視診、聴診、打診、触診 動画視聴 (1) 度部の視診、触診、聴診、打診(2) 身体計測(海系・併至・周囲の計画の意能と方法) (1) 関係の視診・触診、聴診、打診(2) 身体計測(海系・併至・周囲の計画の意能と方法) (3) 胸腹部のフィジカルアセスメント (1) 呼吸音の聴診部位と手技(2) 腸蠕動音の聴診、触診、腹囲測定 (4. 筋・骨格系・神経系のアセスメント 1) ROM・MMT (2) 錐体路・小脳機能・反射 (3) 電法の聴診器の観察 (2) 電法の目的と種類・禁忌 (3) 電法の施行方法と留意点 (5) の機能 (5) 度 (6) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7		3) 脈拍・呼吸・血圧 講義								
(3) 呼吸の正常と異常、呼吸の測定方法 (4) 血圧の正常と異常(5) 血圧のメカニズム、測定方法 (4) バイタルサイン測定 (1) アネロイド血圧計での測定方法(2) バイタルサインの測定方法 (1) アネロイド血圧計での測定方法(2) バイタルサインの測定方法 (1) アネロイド血圧計での測定方法(2) バイタルサインの測定方法 (1) アネロイド血圧計での測定方法(2) バイタルサインの測定方法 (1) 呼吸器系・循環器系の観察 (1) 正常な心音、循環の異常(2) 呼吸音と胸部の視診、聴診、打診、触診 (1) 度部の視察 (1) 腹部の視診、触診、聴診、打診(2) 身体計測(海和・伊里・伊里の計測の意識と方法) (1) 呼吸音の聴診部位と手技(2) 陽蠕動音の聴診、触診、腹囲測定 (1) 呼吸音の聴診部位と手技(2) 陽蠕動音の聴診、触診、腹囲測定 (4. 筋・骨格系・神経系のアセスメント (1) 呼吸音の聴診部位と手技(2) 陽蠕動音の聴診、触診、腹囲測定 (4. 筋・骨格系・神経系のアセスメント (1) ROM・MMT 2) 錐体路・小脳機能・反射 (5. 皮膚・感覚器のアセスメントと電法 (1) 皮膚・感覚器のアセスメントと電法 (1) 皮膚・感覚器の関察 2) 電法の目的と種類・禁忌 (3) 電法の施行方法と留意点 (5. 皮膚・感覚器の観察 2) 電法の目的と種類・禁忌 (6. 以演習 3 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日			と方法							
(4) 血圧の正常と異常(5) 血圧のメカニズム、測定方法 4) バイタルサイン測定 (1) アネロイド血圧計での測定方法(2) バイタルサインの測定方法 第習 3H 専 4) 実技試験オリエンテーション 1H 任 3. 胸腹部の観察とアセスメント 1) 呼吸器系・循環器系の観察 (1) 正常な心音、循環の異常(2) 呼吸音と胸部の視診、聴診、打診、触診 動画視聴 2) 腹部の観察 (1) 腹部の視診、触診、聴診、打診(2) 身体計測(身長・公東・海田の計測の意報と方法) 3) 胸腹部のフィジカルアセスメント (1) 呼吸音の聴診部位と手技(2) 腸蠕動音の聴診、触診、腹囲測定 4. 筋・骨格系・神経系のアセスメント 1) ROM・MMT 2) 錐体路・小脳機能・反射 5. 皮膚・感覚器のでセスメントと罨法 1) 皮膚・感覚器の観察 2) 罨法の目的と種類・禁忌 3) 罨法の施行方法と留意点 GW、演習 3H 評価方法 筆記試験 実技試験 1H 3H テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2][3] 基礎看護技術 I II (医学書院)						2 H				
(1)アネロイド血圧計での測定方法(2)バイタルサインの測定方法 演習 3H 専 4)実技試験オリエンテーション 1H 3. 胸腹部の観察とアセスメント 1)呼吸器系・循環器系の観察 講義 3H 2)腹部の観察 (1)正常な心音、循環の異常(2)呼吸音と胸部の視診、聴診、打診、触診 動画視聴 2)腹部の観察 (1)腹部の視診、触診、聴診、打診(2)身体計測(過去・後生・腹側の計画の意識と方法) 3H 2H 33 h腹部のフィジカルアセスメント (1)呼吸音の聴診部位と手技(2)腸蠕動音の聴診、触診、腹囲測定 4. 筋・骨格系・神経系のアセスメント 1)ROM・MMT 2)錐体路・小脳機能・反射 5. 皮膚・感覚器の観察 2)罨法の目的と種類・禁忌 3H 3H 5. 皮膚・感覚器の観察 2)罨法の目的と種類・禁忌 3W 3H 筆記試験 2H 3H			、測定方法		-					
授業計画		,			演習	3 H				
3. 胸腹部の観察とアセスメント 1) 呼吸器系・循環器系の観察 (1) 正常な心音、循環の異常(2) 呼吸音と胸部の視診、聴診、打診、触診 型)腹部の観察 (1) 腹部の視診、触診、聴診、打診(2) 身体計測(身長・休車・機圏の計測の事報と力法) 3) 胸腹部のフィジカルアセスメント (1) 呼吸音の聴診部位と手技(2) 陽蠕動音の聴診、触診、腹囲測定 4. 筋・骨格系・神経系のアセスメント 1) ROM・MMT 2) 錐体路・小脳機能・反射 5. 皮膚・感覚器のアセスメントと罨法 1) 皮膚・感覚器のアセスメントと罨法 1) 皮膚・感覚器の観察 2) 罨法の目的と種類・禁忌 3) 罨法の施行方法と留意点 「ない、演習 3日 筆記試験 実技試験 「おれる 1日 3日 本れる 2日 本れる 3日 本れる 4日 本れる			インの測定方法	法	·					
1) 呼吸器系・循環器系の観察 (1) 正常な心音、循環の異常(2) 呼吸音と胸部の視診、聴診、打診、触診 2) 腹部の観察 (1) 腹部の視診、触診、聴診、打診(2) 身体計測(身長・体車・麻画の計画の意義と方法) 3) 胸腹部のフィジカルアセスメント (1) 呼吸音の聴診部位と手技(2) 腸蠕動音の聴診、触診、腹囲測定 4. 筋・骨格系・神経系のアセスメント 1) ROM・MMT 2) 錐体路・小脳機能・反射 5. 皮膚・感覚器のアセスメントと罨法 1) 皮膚・感覚器の観察 2) 罨法の目的と種類・禁忌 3) 罨法の施行方法と留意点 「なったでは、なったいないないでは、なったでは、なったでは、なったでは、なったでは、なったでは、なったでは、なったでは、なったでは、なったでは、なったでは、なったでは、なったでは、なったでは、なったでは、なったでは、なったでは、	授業計画					1 H				
1) 呼吸器系・循環器系の観察 (1) 正常な心音、循環の異常(2) 呼吸音と胸部の視診、聴診、打診、触診 2) 腹部の観察 (1) 腹部の視診、触診、聴診、打診(2) 身体計測(身長・体理・腹圏の計測の距義と方法) 3) 胸腹部のフィジカルアセスメント (1) 呼吸音の聴診部位と手技(2) 腸蠕動音の聴診、触診、腹囲測定 4. 筋・骨格系・神経系のアセスメント 1) ROM・MMT 2) 錐体路・小脳機能・反射 5. 皮膚・感覚器のアセスメントと罨法 1) 皮膚・感覚器の観察 2) 罨法の目的と種類・禁忌 3) 罨法の施行方法と留意点 「ない、演習 3 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日						3 H				
2) 腹部の観察 (1) 腹部の視診、触診、聴診、打診(2) 身体計測(身長・体重・腹囲の計測の意義と方法) 3) 胸腹部のフィジカルアセスメント (1) 呼吸音の聴診部位と手技(2) 腸蠕動音の聴診、触診、腹囲測定 4. 筋・骨格系・神経系のアセスメント 1) ROM・MMT 2) 錐体路・小脳機能・反射 5. 皮膚・感覚器のアセスメントと罨法 1) 皮膚・感覚器のでセスメントと罨法 3) 罨法の施行方法と留意点 GW、演習 3 H 評価方法 筆記試験 実技試験 7 キスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2][3] 基礎看護技術 I I (医学書院)					講義		員 			
(1)腹部の視診、触診、打診(2)身体計測(身長・体重・凝囲の計測の意義と方法) 3)胸腹部のフィジカルアセスメント (1)呼吸音の聴診部位と手技(2)腸蠕動音の聴診、触診、腹囲測定 4. 筋・骨格系・神経系のアセスメント 1)ROM・MMT 2)錐体路・小脳機能・反射 5. 皮膚・感覚器のアセスメントと罨法 1)皮膚・感覚器の観察 2)罨法の目的と種類・禁忌 3)罨法の施行方法と留意点 GW、演習 3H 評価方法 章記試験 実技試験 テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2][3] 基礎看護技術 I II (医学書院)			聴診、打診、	触診	動画視聴					
(1) 腹部の視診、触診、打診(2) 身体計測(身長・体重・腹圏の計測の意義と方法) 3) 胸腹部のフィジカルアセスメント (1) 呼吸音の聴診部位と手技(2) 陽蠕動音の聴診、触診、腹囲測定 4. 筋・骨格系・神経系のアセスメント 1) ROM・MMT 2) 錐体路・小脳機能・反射 5. 皮膚・感覚器のアセスメントと罨法 1) 皮膚・感覚器の観察 2) 罨法の目的と種類・禁忌 3) 罨法の施行方法と留意点 筆記試験 実技試験 デキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2][3] 基礎看護技術 I II (医学書院)					小テスト	2 H				
(1) 呼吸音の聴診部位と手技(2) 腸蠕動音の聴診、触診、腹囲測定 4. 筋・骨格系・神経系のアセスメント 1) ROM・MMT 2) 錐体路・小脳機能・反射 5. 皮膚・感覚器のアセスメントと罨法 1) 皮膚・感覚器の観察 2) 罨法の目的と種類・禁忌 3) 罨法の施行方法と留意点 章記試験 実技試験 テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2][3] 基礎看護技術 I II (医学書院)			重・腹囲の計測の意義と	方法)		•				
(1) 呼吸音の聴診部位と手技(2) 腸蠕動音の聴診、触診、腹囲測定 4. 筋・骨格系・神経系のアセスメント 1) ROM・MMT 2) 錐体路・小脳機能・反射 5. 皮膚・感覚器のアセスメントと罨法 1) 皮膚・感覚器の観察 2) 罨法の目的と種類・禁忌 3) 罨法の施行方法と留意点 GW、演習 3 H 評価方法 筆記試験 実技試験 1 H 3 H 3 H					演習	3 H				
1) ROM・MMT 2) 錐体路・小脳機能・反射 5. 皮膚・感覚器のアセスメントと罨法 1) 皮膚・感覚器の観察 2) 罨法の目的と種類・禁忌 3) 罨法の施行方法と留意点 GW、演習 3 H 評価方法 筆記試験 実技試験 1H フキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2][3] 基礎看護技術 I II (医学書院)			触診、腹囲測:	定	·					
5. 皮膚・感覚器のアセスメントと罨法 1)皮膚・感覚器の観察 2)罨法の目的と種類・禁忌 動画視聴 3)罨法の施行方法と留意点 GW、演習 3H 評価方法 事記試験 実技試験 1H 3H テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2][3] 基礎看護技術 I II (医学書院)		W 17 18 17 18 17 18 17 18 17 18 17 18 17 18 17 18 17 18 17 18 17 18 17 18 17 18 17 18 17 18 17 18 17 18 17 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18								
5. 皮膚・感覚器のアセスメントと罨法 動画視聴 1)皮膚・感覚器の観察 2)罨法の目的と種類・禁忌 GW、演習 3H 3)罨法の施行方法と留意点 H 評価方法 実技試験 テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2][3] 基礎看護技術 I II (医学書院)					講義	3 H				
3) 罨法の施行方法と留意点 GW、演習 3H 評価方法 筆記試験 実技試験 1H 3H テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2][3] 基礎看護技術 I II (医学書院)				!	動画視聴					
 筆記試験 実技試験 テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2][3] 基礎看護技術 I Ⅱ (医学書院) 			· 禁忌							
評価 方法 実技試験 3H 3H				(GW、演習					
実技試験 3H テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2][3] 基礎看護技術 I II (医学書院)	評価方法									
		実技試験								
参考文献 看護がみえる③ フィジカルアセスメント(メディックメディア)	テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2][3]:	基礎看護技術	術II	(医学	書院)				
· ·	参考文献	看護がみえる③ フィジカルアセスメント(メ	ディックメ・	ディア)						

科目名	与薬の看護方法論	単位数	1	時間数	30
担当教員		実務経験	有	履修年次	2 年
科目の概要	疾病の診断や治療については医師が中心的な行題のある人々への援助の方法として、医師の行に、その指示や了解のもとに検査や治療に携わずる。 1. 診療・検査における看護師の役割がわかる 2. 薬物療法が理解できる。	う診療や治療	療行為(の介助をする	るとと も
学 習 目 標	 2. 架物療法が理解できる。 3. 与薬の技術がわかる。 4. 注射法の基礎技術がわかる 5. 薬剤の管理がわかる 6. 輸血の管理がわかる 				
	学習内容	授	受業方法	時間	担当
授業計画	 診療・検査における看護師の役割がわかる 薬物療法が理解できる。 薬物療法の意義 与薬の基礎知識 与薬の 	方法	講義	1 H	
	 3. 与薬の技術がわかる 1) 内服薬の投与 2) 経皮・外用薬の投与 4. 注射法の基礎技術がわかる 1) 皮下注射 2) 筋肉内注射 		演習	2H 3H 2H 3H 2H 3H	専任 教員
	3) 点滴静脈内注射 静脈確保・点滴静脈内注射と管理 5. 薬剤の管理がわかる 1) 毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤・抗がん剤の		講義	3 H 2 H 4 H 2 H	
	管理 6. 輸血の管理がわかる			2H	
評価方法 テキスト 参考文献	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎	楚看護技術 I	I (医	学書院)	

診療の補助である与薬技術は知識と技術が必要となります。演習が中心となりますので、各自、 文献、動画による手順、注意事項などの確認し、準備を十分して臨んでください。1回1回の授業を 大切にしていきましょう。

科目名	検査・一次救命の看護方法論	単位数	1 8	寺 間 数	30				
担当教員	専任教員 病院看護師 臨床工学技士	実務経験	有原	夏修年次	2 年				
	疾病の診断や治療については医師が中心的な役割を担当するが、看護師は健康に問								
もこの無悪	のある人々への援助の方法として、医師の行う診療	寮や治療行	為の介助	かをすると	ともに、				
科目の概要	その指示や了解のもとに検査や治療に携わる。ここでは、医療安全の視点から、検査								
	や治療に伴う技術を学ぶ。								
	1. 診療・検査における看護師の役割がわかる								
	2. 検体検査・生体検査が理解できる。								
学習目標	3. 救急状況における患者の看護が分かり、一時期	枚命法が取	得できる) _o					
子白日保	4. 創傷処置の基本がわかる。								
	5. 医療機器の取り扱いがわかる。								
	6. 医療安全の視点から患者の安全確保ができる。								
	学習内容	授業	方法	時間	担当				
	1. 症状・生体機能管理技術								
	1) 検査基礎知識 2) 検体検査・生体検査	義	8 H						
	3) 正確な検査を行うための患者の援助	グルー	プワーク	0 11	事任				
	4) 薬剤・放射線暴露防止								
	2. 検体検査と検体の取り扱い				_				
	1) 検体の取り扱い(血液、尿など)	=# 3	講義 3H		教員				
	2) 針刺し事故防止・対応3) 感染性廃棄物の取り扱い	神	残る□	6 H					
	4) 静脈血採血								
授業計画	上記 1) ~4) の演習(静脈血採血を主にその他演習を行う) 演	習 3H						
技术	3. 救命救急処置技術	=# -			. 				
	1) 緊急時の応援要請 2) BLS3) 止血法	講	義 3H	7 H	病院				
		 演	 習 4H		看護師				
	 1) 創傷処置(創洗浄・創保護・包帯法・ドレーン類の	講	義 3H		専任				
	挿入部の処置)の基本的知識			6 H	教員				
•		 演	 習 3H						
	5. 医療機器の取り扱い		L 34						
	1) 人工呼吸器、心電図モニター、輸液ポンプ、		義	2 H	臨床工				
	シリンジポンプなど	沙	習		学技士				
評価方法	筆記試験	1		1H					
_ + - 1	·系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] a	基礎看護技	術 I	(医学書院	烷)				
テキスト	・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] る	基礎看護技	術Ⅱ	(医学書)	院)				
参考文献									
担当教員から	らのメッセージ								

演習前に文献、動画を活用して、方法、注意事項を確認し十分な準備をして臨んでください。

科目名	看護過程	単位数	1	時間数	30			
担当教員	専任教員	実務経験	有	履修年次	1年			
11 C & FITT	計画を立てて援助を実践し評価する過程をいう。看護実践に必要な看							
科目の概要	ついての理論と実際を理解し、個々の対象者に	昇決能力・思 え	き能力の しょうしん かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かい					
	基礎を身につける。							
	1. 看護過程の概要がわかる							
学習目標	2. 看護の展開方法がわかる							
	3. 事例の対象の看護が展開できる							
	学習内容	授	業方法	時間	担当			
	1. 看護過程の概要							
	2. 看護の展開方法			2 H				
	1) アセスメント過程①病像の情報分類							
	②病像の解釈・分析・まとめ		感覚教材 · ·	t 2H				
	③生活像の解釈・分析・まとめ	_	例課題	2 H				
	④社会像の解釈・分析・まとめ		講義 演習	2 H				
	⑤関連図・全体像		供白	2 H				
	2) 計画・立案の過程			0				
	①目標 ②問題点 ③具体策			2 H				
授業計画	3) 実施の過程 4) 評価の過程			2 H	専任			
	3. 事例の対象の看護の展開		TBL	2 H	教員			
	1) 看護を展開するための必要な知識の確認	j j	まとめ	211				
	4. 事例患者の立案看護計画の立案	事例個	人ワー	-ク 4H				
		グルー	-プワー	-ク 4H				
	5. 具体策の実施		演習	2 H				
	6. 実施・評価・修正・まとめ、リフレクション		、ワーク					
		-	-プワー	-ク 1H				
		 	ミとめ	1 H				
	筆記試験							
	まとめ	0		1H				
評価方法	① TBL 20点 ② 個人の看護計画 10点③グル		隻計画 1	U 点				
テキスト	④ 実施~リフレクション 10 点⑤ 筆記試験 当校の看護過程の小冊子							
, T ^ F	当校の名	ックメディア	•					
参考文献	看護過程が兄んる アナイクシアナイア病気が兄んる アナイ 基礎看護技術 I 医学書院看護形態機能論・看護病態論・各看			授業資料				
		1 100 HIII -> /	1 1	200011				

看護過程は技術です。したがって、トレーニングして身に着けるものです。これを身につけると、 対象を全人的にとらえることができます。また、考える看護師になることができます。

					ZUZ3 T				
科目名	臨床看護総論	単位数	1	時間数	30				
担当教員	専任教員	実務経験	有	履修年次	1 年				
	初めて患者を受け持って日常生活援助を実活	初めて患者を受け持って日常生活援助を実践する基礎看護学実習Ⅱにつなげるた							
科目の概要	めの科目である。これまで学んだことを統合して実習で使えるようにする。事例課題								
	の情報を分析し、模擬患者に必要な看護実践が	ヾできるこ 。	とを目	指す。					
	1. 事例に必要なフィジカルイグザムの項目が	あげられる)						
	2. フィジカルイグザムを正しく実践できる								
는 33 C 1#	3. フィジカルイグザムに必要なコミュニケー	ション技術	を実践	態できる					
学習目標	4. フィジカルアセスメントができる								
	5. 必要な援助を実践できる								
	6. 自己の技術を振り返ることができる								
	学習内容	授	業方法	時間	担当				
	1. オリエンテーション	Ī	講義	1 H					
	2. 練習事例のアセスメント	個.	人学習	2 H					
		グル-	ープ学	習 1H					
	3. 練習事例の展開	1	解説	1H					
	1)教員によるデモンストレーションと解説	個.	人学習	1H					
	2)振り返り	グル-	ープ学	習 2H					
	4. 演習事例のアセスメント	個.	人学習	3 H					
授業計画	4. 庾百事例のアセスメント	グル-	ープ学	習 2 H	専任				
		グル-	ープ練	習 2H	教員				
	5. 演習事例の展開	個.	人練習	3 H					
		評価	価演習	3 H					
		個,	人学習	3 H					
		グル-	ープ学	習 2 H					
	6. アセスメント・結果・考察・振り返り	1	解説	1 H					
		レ	ポート	2 H					
		ま	とめ	1н					
評価方法	評価演習場面 50 点 レポート 50 点	1		-	'				
テキスト	統計看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎	楚看護技術	I (国	三学書院)					
	看護形態機能論・看護病態論のテキスト授業資	資料							
参考文献	看護過程冊子								
少方义队	看護師のための文書ノート 井部俊子(日本看護	養協会出版:	会)						
	病気が見えるシリーズ								

シミュレーターや友人を活用して技術を学んできました。生身の人間かつ目上の人に、実際に行うことにより技術のレベルアップを図ります。自信を持って実習に臨めるよう励みましょう。